檜原村地域公共交通活性化協議会（東京都檜原村）

総合事業　確保維持改善事業

取組み（功績）の概要　『路線バスと役割分担しながら、山村の交通空白地域にフィーダー交通を導入』

○「高齢者や小中高校生等の日常生活を支える」という目標のもと、村内の交通空白地域にデマンドバス「やまびこ」を導入した。
○主要道路を運行する路線バスは幹線、デマンドバスは支線との役割分担を行い、ダイヤ調整など乗り継ぎ利便性の向上を実施した。交通空白地域の解消のみならず、路線バス（幹線）の利用者が増加するなど、相乗効果が生まれている。
○グループインタビューやアンケート調査により、利用者や地域住民のニーズ・意見を事業に反映している。グループインタビュー調査の結果を受け、通学に適した電車に接続するため、早朝時間帯に「通学専用急行バス」の運行を開始した。

○事業内容

1. 檜原村デマンドバス「やまびこ号」

◆路線区分　・神　戸（かのと）線　：神戸園入口 ー 郷土資料館
・藤　倉　線　：上白岩 ー 藤倉バス停
・笛吹・上平線（実証運行）：笛吹芝下ー　人里バス停

◆本　数　・神戸線：1日14便（定時便10本、予約便4本）
・藤倉線：1日10便（定時便9本、予約便1本）
・笛吹・上平線：1日6便、
月・水・金曜日運行（予約便6本）

◆運　賃　100円（各路線共通）

＜グループインタビューの様子＞

2. 檜原村通学専用急行バス実証運行（平成22年9月1日～（平成25年3月末まで延長中））

◆運行区間　払沢の滝入口バス停～武蔵五日市駅（和田向バス停以降はノンストップ）

◆運 行 日　月～金曜日（祝日は運休）

◆利用対象者　高校生、専門学校生、大学生等

◆本　数　1日早朝2便

◆運　賃　100円（引き換えに帰りの路線バスに利用できる100円分の割引チケットを配布）

＊路線バスとデマンドバスの乗り継ぎ利便性を確保

佐野市地域公共交通協議会（栃木県佐野市）

総合事業　確保維持改善事業

取組み（功績）の概要　『地域住民の参画も得ながら、市内のバス交通ネットワークを構築』

〇旧町営バスの運行方法の統一と交通空白地域への対応を図るため、市営バスの再編によるバス交通ﾈｯﾄﾜｰｸの再構築に取り組んだ。
〇再編に当たっては、葛生地区、田沼地区、佐野地区の市街地を結ぶ路線を基幹線とし、これに接続する路線である支線はフリー乗降やデマンド運行等、地域需要に応じた運行形態を導入。乗り継ぎ利便性の向上も、あわせて図っている。
〇交通空白地域（赤見地区）での名水赤見線の導入に当たっては、ワークショップにおいて運行内容を決定するなど地域住民主体の公共交通の導入が進められているほか、「佐野市バス・エコ・サポーターズクラブ」による活動展開など、地域の関係者との協働体制が構築されている。

〇事業内容

1．バス交通ネットワークの再構築

・各路線の利用実績の分析や、利用者の要望等の検討により、利用者ニーズにあった便数、時間帯、一部のデマンド化（予約制運行）等への見直しを行い、利便性の向上を図る。

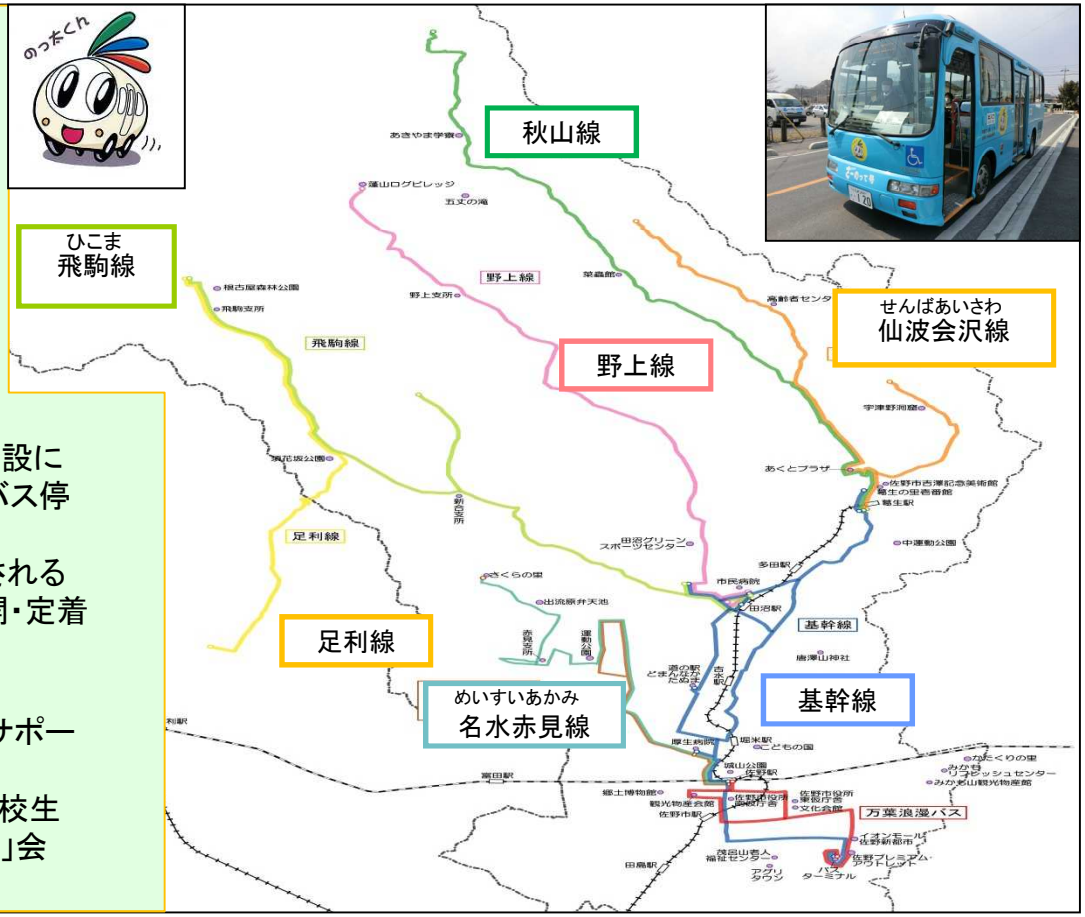
◇基幹線：葛の里壱番館を起点に、葛生駅、佐野駅、佐野新都市バスターミナルを結ぶ路線
◇支　線：フリー乗降、一部デマンドなど運行方法を工夫

2．交通空白地域の解消

・交通空白地域（赤見地区）へのコミュニティバス（名水赤見線）の新設に当たって、沿線住民が参加するワークショップを行い、運行経路やバス停位置、便数など検討（全8回実施）。
・他の交通空白地域（犬伏地区）においても、ワークショップが開催されるなど、地域住民主体の公共交通の導入という考え方が、市内に展開・定着しつつある。

3．利用促進策

・運賃収入以外の安定的収入を確保するため、「佐野市バス・エコ・サポーターズクラブ」を設立。年会費の支払いにより各種の特典を付与。
・3つの祭りの日に合わせた「無料乗車日」の実施、市内の小・中・高校生を対象に夏休み期間中バスが乗り放題の「夏休み子どもパスポート」会員の募集等



珠洲市地域公共交通活性化協議会（石川県珠洲市）

総合事業　確保維持改善事業

取組み（功績）の概要　『地域による支援活動を通じて、バスを守り育てる運動を展開』

○交通空白地域へのデマンド型乗合タクシーの導入や、既存バス路線に代えてスクールバスを活用して乗合バスを運行するなど、地域の公共交通を再編。
○旧珠洲駅跡地を道の駅「すずなり」として再整備し、市外からの特急バスと市内路線の交通結節点として位置づけ、交通体系の再整理を行った。
○地域住民が路線バスを共有財産として捉え、バス停留所の除雪・清掃、バス停ベンチの設置等などのバス支援活動を行う、「バス・ボランティア・サポートプログラム」制度を創設。地域団体、学校等によるバス支援活動が積極的に行われている。

○事業内容

1. デマンド型乗合タクシーの運行

・山間部に位置する交通空白地域にデマンド型の乗合タクシーを導入。

・路線バスに接続させることで、幹線・支援の役割分担を踏まえた運行を行っている。

2. スクールバスの乗合運行

・既存バス路線に代えて、スクールバスの回送運行を一般乗合バスとして運行することで、効率的に交通サービスを維持。

3. 交通結節点の整備とバス路線の再編

・のと鉄道旧珠洲駅跡地を道の駅「すずなり」として再整備。市外（能登空港／金沢）からの特急バスと市内路線の交通結節点として位置づけ、交通体系の大幅な再整理を図った。

4. バス・ボランティア・サポートプログラム

・地域住民が路線バスを共有財産としてとらえる「バス・ボランティア・サポートプログラム」制度を創設。
・バス・ボランティア・サポート団体を結成し、地域団体や学校、市民団体等によるバス支援活動が生まれた。

古くなった住民所有の倉庫を待合所として利用

住民によるバス停設置活動の様子

高校生による
バス停の清掃活動

北設楽郡公共交通活性化協議会（愛知県設楽町、東栄町、豊根村）

総合事業　確保維持改善事業

取組み（功績）の概要　『山村の複数町村の連携で、総合交通システム「おでかけ北設」を構築』

〇郡内3町村が一つの生活圏として機能する交通システムの構築を目指し、3町村の連携により町営・村営バスの運行を一体化し、総合交通システム「おでかけ北設」を実現。
〇路線を「基幹バス」、「支線バス」、「予約バス」等に分類し、役割を明確化。町村を跨る町村営バスは相互に乗り入れを行い、区別なく利用できるようにした。
〇こうした取組みにより、郡内唯一の高校の下宿解消、高齢者の外出機会の増加などの効果が見られている。

〇事業内容

1. 町営バス、村営バスの運行一体化
・各町村内で完結していた町営（村営）バスの運行を一体化。運賃体系やバス停デザインも統一。
・独自のHPを立ち上げたほか、「おでかけ北設だより」、「おでかけ北設時刻表」を作成し、運行案内、ダイヤ改正等、きめ細やかな情報提供を行い、利用者への「わかりやすさ」にも配慮。
・路線を「基幹バス」、「支線バス」、「予約バス」に分類。乗換拠点での案内・待合設備の充実を図った。

2. 隣接市との連携
・隣接する新城市と連携し、バス利用促進キャンペーンを実施。

3. その他
・会議には3町村全ての首長が委員として参画。また、「協議会」の下に、町村間運行・事業者との調整などを行う「幹事会」、町村内における住民・利用者意見を汲み上げるための「分科会」を設置、効率的に運営。

3町村の地域公共交通イメージ

実線：基幹バス　点線：支線バス　楕円：予約バス

町村ごとに異なっていたバス停デザインの統一

「新城・北設めぐりキャンペーン」等、バス利用促進事業の実施

倉敷市地域公共交通会議（岡山県倉敷市）

総合事業　確保維持改善事業(予定)

取組み（功績）の概要　『交通空白地域の解消、エコ通勤など総合的な取組みを積極的に推進』

○自治会等による事業運営、運行経費の一部の自治会等の負担など、住民主体の公共交通運営を市がサポートする仕組みを構築し、西坂地区において、NPOによる乗合タクシーの導入を実現し、交通空白地域の解消を図った。
○小学生へのバス乗り方教室（学校MM）、水島コンビナート勤務する従業員対象のエコ通勤（企業MM）を実施しているほか、市内転入者向け公共交通パンフレットの作成などを通じて、公共交通の意義等について積極的にPRしている。
○井原鉄道、水島臨海鉄道において、パーク＆ライド駐車場を整備するなど、公共交通の利用促進にも、取り組んでいる。

○事業内容

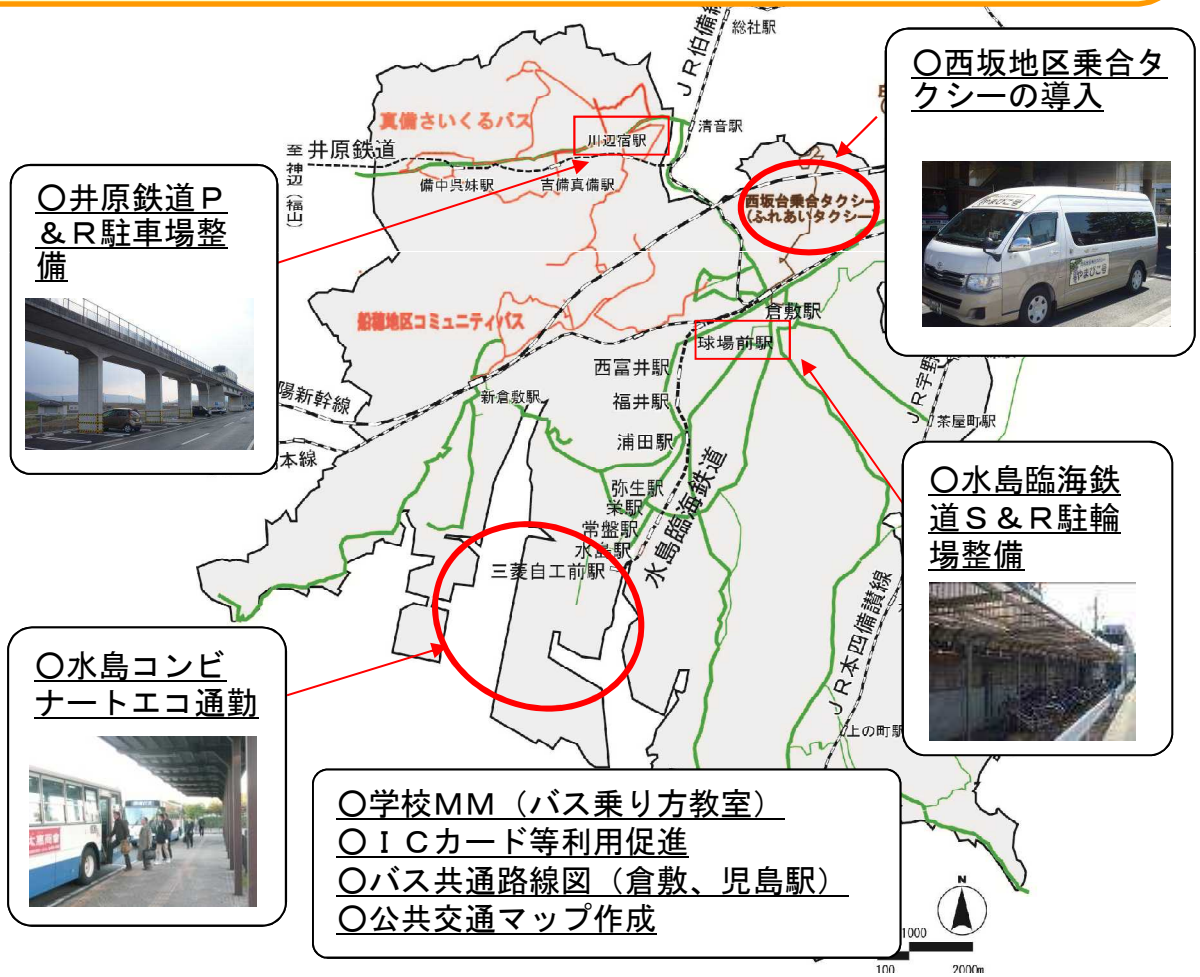
1. 乗合タクシー の導入促進

・倉敷市が「倉敷市乗合タクシー補助制度」を創設。地域に運営組織があること、運行経費の一部を地域が負担することなどを条件に市が支援。住民主体の公共交通運営を自治体がサポートする仕組みを創設。
・西坂地区において、NPO法人「地域の公共交通を守る会」を運営主体とする乗合タクシーを導入。

2. 意識啓発による公共交通利用促進（MM）

・水島コンビナート地区を対象としたエコ通勤の推進、市民・小学生等を対象としたMMにより公共交通の利用促進を図った。

＜小学生を対象とした学校MMの様子＞

3. パーク＆ライド（P＆R, S＆R）駐車場等の整備

・井原鉄道、水島臨海鉄道の駅にパーク＆ライド用の駐車場・駐輪場を整備し、公共交通の利用促進を図った。